

平成18年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成17年8月11日

上場会社名 名港海運株式会社 (コード番号：9357 名証第2部)
 (URL <http://www.meiko-trans.co.jp>)
 代表者 役職名 取締役社長 氏名 三輪 尚治
 問合せ先責任者 役職名 常務取締役 氏名 近藤 久忠 (TEL (052) 661-8134)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (内容)
 法人税等の計上基準等に一部簡便的な方法を採用しております。
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成18年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成17年4月1日～平成17年6月30日）

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 ・記載金額は表示単位未満切捨て、比率は四捨五入しております。

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期(当期)純利益 | |
|-------------|--------|-----|-------|------|-------|------|------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 18年3月期第1四半期 | 14,443 | 9.4 | 1,328 | 44.7 | 1,489 | 35.2 | 716 | 69.5 |
| 17年3月期第1四半期 | 13,202 | 3.9 | 917 | - | 1,102 | - | 422 | - |
| (参考) 17年3月期 | 54,868 | | 3,523 | | 4,836 | | 2,366 | |

| | 1株当たり四半期 (当期)純利益 | | 潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 | |
|-------------|---------------------|----|--------------------------------|---|
| | 円 | 銭 | 円 | 銭 |
| 18年3月期第1四半期 | 22 | 88 | - | - |
| 17年3月期第1四半期 | 13 | 48 | - | - |
| (参考) 17年3月期 | 74 | 29 | - | - |

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期におけるわが国経済は、企業収益の改善による民間設備投資の増加などにより、景気は緩やかな回復基調にあるものの、原油価格の高騰などの懸念材料もあり、不透明な状況で推移しました。

当社グループが営業の基盤を置く名古屋港の港湾貨物は、自動車部品、産業機械などを中心に増加となりました。

このような状況の中、当社グループでは、取扱貨物量の増加を図り、併せて、物流合理化および経費の節減を推進することにより、経営の安定と業績の向上に努めました。

これらの結果、当第1四半期の売上高は、144億43百万円（前年同期比9.4%増）となり、営業利益は13億28百万円（前年同期比44.7%増）、経常利益は14億89百万円（前年同期比35.2%増）、四半期純利益は7億16百万円（前年同期比69.5%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

港湾運送及びその関連事業の売上高は128億6百万円（前年同期比9.7%増）、営業利益は11億60百万円（前年同期比35.4%増）、倉庫・賃貸事業の売上高は16億37百万円（前年同期比6.8%増）、営業利益は1億67百万円（前年同期比178.3%増）となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 | |
|-------------|--------|--------|--------|-----------|----|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 | 銭 |
| 18年3月期第1四半期 | 72,977 | 49,835 | 68.3 | 1,592 | 66 |
| 17年3月期第1四半期 | 69,116 | 47,119 | 68.2 | 1,504 | 18 |
| (参考) 17年3月期 | 73,344 | 49,414 | 67.4 | 1,577 | 61 |

【 連結キャッシュ・フローの状況 】

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期末残高 |
|-------------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 18年3月期第1四半期 | 25 | 0 | 605 | 10,214 |
| 17年3月期第1四半期 | 53 | 963 | 336 | 10,594 |
| (参考) 17年3月期 | 3,530 | 4,143 | 452 | 10,797 |

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

(財政状態)

当第1四半期の総資産は、729億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億66百万円の減少となりました。主な要因は、現金預金が5億82百万円、出資金が5億47百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債の部は、152億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億23百万円の減少となりました。主な要因は、賞与引当金が5億41百万円、未払法人税等が4億29百万円それぞれ減少したことによるものであります。

株主資本は、498億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億21百万円の増加となりました。主な要因は、利益剰余金が3億69百万円増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期の連結キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローの増加、投資活動によるキャッシュ・フロー及び財務活動によるキャッシュ・フローの減少、これに現金及び現金同等物にかかる換算差額(1百万円の減少)があり、全体で5億82万円の減少となり、現金及び現金同等物の期末残高は102億14百万円となりました。

営業活動からのキャッシュ・フローは、25百万円となりました。これは税金等調整前四半期純利益14億49万円の反映された一方で、賞与引当金の減少額が5億41百万円あったことが主な要因です。

投資活動により支出されたキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が6億20百万円あった反面、海外連結子会社において出資金の回収が6億17百万円ありました。

財務活動により支出されたキャッシュ・フローは、6億5百万円となりました。これは、配当金の支払額が3億6百万円あったことが主な要因です。

3. 平成18年3月期の連結業績予想(平成17年4月1日~平成18年3月31日)

平成18年3月期の中間期および通期業績予想につきましては、平成17年5月25日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。